

景観グループ

◆草刈り隊

森田 展正

里山の今



果樹グループ

◆「ならやま梅林」に育んだ夢

梅守の翁 古川 祐司

景観グループ内では、草刈り作業班のことをいつしか草刈隊と呼び合っている。今年は記録的な暖冬で、芽吹きの季節が早く訪れている。暑い中で、草木の成長と草刈作業の進捗度との戦いがやってくる。

そこで合理的で効率的な草刈り方法はないものかとインターネットで検索してみた。

その結果、草の成長サイクルに合わせた時期で行う事とあった。始めは、6~7月：草が大きく成長する前に刈り取る。成長をし過ぎるのを止める。次に、9~10月：気温が下がり草の成長の勢いが落ちてくる頃。成長をし難くする。そして、11~12月：冬になって草が枯れてくる頃。枯草を刈って景観を保つ。このような理由から、年3回行うのが理想とされている。

用具は、草刈りの用途や場所に適した刈払機や刈刃を選択し、安全のための保護具を着用して、安全で快適に作業を行なうことに心掛けている。

蛇足ではあるが、作業中は地表面の状況が草で覆われているため障害物や凹凸の状況が把握し難い。そのため多くのトラブルが発生し易い状況にある。作業中は15m以内に人は立入らないことをお願いしたい。

最近、草刈作業の負荷軽減に自走式草刈機、廃竹材の減容化に樹木粉碎機(ウッドチップパー)が購入され活躍している。自走式草刈機は、なだらかな草地なら女性でも運転が容易であることから女性隊員の参加も期待されている。

一方、樹木粉碎機から出る粉碎粉(チップ)は、土壌改良や防草用材として用途があり、チップを活用し、草刈り面積の削減が出来ればと考えている。



令和の春3月、新型コロナウイルス騒ぎをよそに「ならやま梅林」は満開である。今年は、特に花芽が充実したようだ。一昨年、剪定を徹底した効果だろう。道を通る人が足を止めて写真を撮ったりしている風景を見るのは楽しい。この梅林、景観形成事業として始めた最初の果樹園である。平成20年に着手計画、16本の南高梅の苗木を特注し、1年後の11月24日に植付けが完了した。素人集団でよく出来たものだと喜ぶ一同に、先輩が冷やかす。「桃栗3年柿8年梅は酸い酸い13年というぜ」。これに大石門三さん(元会員)「接ぎ木苗だから3年目には実がなる」。さらに一言、「10アールに20本植えて最大で2.5トン取れるというから、16本で2トンも夢じゃない」と。この大風呂敷に一同大笑い。以来、「ウメ2トン」が我々の夢を語る合言葉となった。あれから10年、梅の木は大きく育ったが「ウメ2トン」の夢はまだ先のようなのだ。あの時笑った先輩や大石さんはもういない。

今年から「果樹グループ」が発足する。リーダーはヤングシニアの有元康人さん。

当面は「実りの森」を果樹園にする仕事に取り組む。柿、栗、サクランボ、スモモ、ブルーベリー、クルミ、キウイ、ナツメなどを植える計画だ。「ならやま梅林」や各所にある果樹の管理も担当する。専門知識や技術の勉強も必要だ。

しかし何よりも肝心なものは人材だ。新しい皮袋には新しい酒が相応しい。

ヤングシニアの皆さん、果樹園グループに参加して「次の10年」に夢を育てませんか。心ある方々のご参加をお待ちしています。

年年歳歳花相似 (年々歳々花相似たり)  
歳歳年年人不同 (歳々年々人同じからず)